文末助詞の“啊”と“吧”

安藤好恵

0．はじめに

私達は発話によって聞き手にある行為をさせることができる。(「暑いですね」と言って聞き手に窓を開けさせるなど。) しかしこの場合発話の中に「窓を開けてください」という依頼が言語化されているわけではない。「暑いですね」という発話が窓を開けるという行為に結びつくかどうかは聞き手の認識能力にかかっている。話し手は自分の意図（情報の伝達から動的行為まで）を聞き手に効果的に伝達するために，最適の言語形式を選択する必要がある。日本語の終助詞，中国語の文末助詞[1]はこうした発話において重要な役割を担っていると考えられる。さて，日本の小説を中国語に翻訳したものの中に，日本語の同一の終助詞が中国語では“啊”と“吧”に訳し分けられている例が見られた。

（1）私は太鼓を提げてみた。「おや、重いんだな。」
「それはあなたの思っているより重いわ。あなたのカバンより重いわ。」
踊子が笑った。(『伊』)
我试着把鼓提起来。“唉呀，真重啊”
“比你想像的重吧。比你的书包还重啊”舞女笑了。

（2）「あれが大島なんですね」
「あんなに大きく見えるんですもの、いらっしゃいましね」(『伊』)
“那就是大岛呀。”
“看起来竟是那么大。您一定来啊。”

（3）「活動につれて行って下さいね」(『伊』)
“请带我去看电影吧。”

本稿はこうした“啊”と“吧”の使い分けに着目し，談話の場（話し手と聞き手が同じ場所に存在し，そこで発生する情報を二人が共有できる場）において，話し手の伝達意図を表すために“啊”と“吧”がどのように機能しているかを考察するものである。[2]

1．先行研究

朱徳熙は“啊”は「話し手の態度や感情を表す」もので，「疑問詞疑問文，選択疑問文，正反疑問文に用いられた場合は語気をやわらげる：諾否疑問文では相手の意向や発言を確かめる：平叙文、命令文では相手の注意を喚起したり，警告の語気を持つ」と指摘している。“吧”は「命令」と「疑問」の２種に分けた。(3)胡明揚（1981）は“啊”「話し手の感情を表す，具体的なニュアンスは発話内容と言語環境によって決まる」，“吧”「与えられた発話内容に対し断定を避ける」と指摘した。(4)木村・森山（1992）では“吧”は「真偽の判定の保留もしくは断定の回避」と指摘した。(5)李（2001）では諾否疑問文に用いられる“啊”と“吧”を比較し，“啊”「話し手が自分の既存情報に矛盾する新情報を獲得したためその信憑性を聞き手に確認する」，“吧”「話し手にとって不確定情報があり，聞き手に情報を提供するよう求める」と指摘した。(6)

2．対自分型発話における“啊”と“吧”

談話の場における“啊”と“吧”の使用情況を見る前に，独り言など自分に向けられた対自分型発話について，“啊”と“吧”の使用情況を見る。（対自分型発話とは，話し手一人しかいない環境での発話である。「つぶやき」であっても，その場に聞き手がいれば談話の場が成立しているとみなし，対相手型発話とする。）対自分型発話とは入力された刺激を記憶するための処理過程の一環で，当該事象を自分自身に印象付けるために行われると考える。従って対自分型発話において，どのような文脈で“啊”と“吧”が用いられるかを見ることは“啊”と“吧”の本質を知る上で有効であると考える。

“啊”が現れる対自分型発話は２種類に分かれる。一つは感覚刺激を意味に符号化し発話したものである。

（4）あるあさ，ひとりのたび人がとけい台を見上げて，「このとけいはとまっているな。なおしてあげよう。」とひとりごとを言って，町やくばへいきました。（『日』）

一天早晨，有一位过路人抬头看看钟楼，自言自语地说：“这个钟停了呀，我来给修修。”就向镇公所走去。

この時発話者は事象を既に確定した事実として捉えている。（4）では“这个钟停了呀”に“好像”などの蓋然性を表す副詞を付けることはできない。

もし“啊”がなければ文は成立する。

（4）′ ＊这个钟好像停了呀。

（4）” 这个钟好像停了。（この時計は止まっているようだ）

もう一つは複数の事柄を組合せ論理的帰結に到達したことを表すものである。

（5）そして芸人達は木賃宿と向い合った料理屋のお座敷に呼ばれているのだと分った。－中略－太鼓の音が聞こえる度に胸がほうと明るんだ。「ああ、踊子はまだ宴席に坐っていたのだ。坐って太鼓を打っているのだ」（『伊』）

我明白了，艺人们被召到小客店对面的饭馆，在宴会上演出。－每次听见鼓声，心胸就豁然开朗。“啊，舞女还在宴席上坐着敲鼓呐。(7)”

（5）の発話は「太鼓の音が聞こえれば踊子は宴席にいる」，「太鼓の音が聞こえた」という前提から導き出された「踊子は宴席にいる」という結論を述べたもので，ボトムアップ式に処理される思考の過程がうかがえる。一方“吧”は，

（6）うさぎが，たちどまってうしろをみると，かめのすがたはみえません。かめは，ずっとあとを歩いているのです。「なあんだ。かめときょうそうするなんて，ばかばかしい。ひとやすみしよう。」（『日』）

兔子停住，回头一瞧，不见乌龟的身影。原来，乌龟正在远远的后面爬着呢。“真是的，和乌龟赛跑，简直太无聊了。先歇会儿吧。”

（6）は「亀の姿が見えない」という前提に端を発する思考の推移であり，自分への提案である。

（7）うさぎは，目をさまして，「まだだいじょうぶだろう。かめは，のろいから。」とひとりごとをいって，かけていきました。（『日』）

兔子一觉醒来，自言自语地说道：“大概不要紧吧。反正乌龟爬得慢。”

（7）は発話に直接関係する感覚刺激情報がない。（6）の前提のまま導き出された推論である。

上記（4）～（7）の“啊”と“吧”は互換不可である。以上から“啊”と“吧”が現れる対自分型発話をまとめる。

“啊”：①事象を確定したものとして捉え，言語化したもの。
②入力された一連の情報の帰着点。使用の背景にはある程度まとまった論理の裏付けがある。

“吧”：入力された情報から導出される妥当な提案や推論。確定要素はない。

3．対相手型発話における“啊”と“吧”

次に聞き手に向けられた対相手方の発話について，文の種類ごとに“啊”と“吧”の使用状況を見ていく。対相手型の発話とは，談話の場において，話し手が発話により聞き手にある内容を伝達しようとする行為（聞き手の知識状態 K_{n-1}→文 S_n→知識状態 K_n（n＝1，2，3，…））[8]である。

3．1 平叙文

平叙文は話し手が聞き手にある情報を与えることを目的とする文である。

（8）刘：为了他你把自己这辈子都搭进去犯不着。这房子你也甭给他。（彼のために自分の人生を投げ出す必要なんてないだろう。このマンションだって彼にやることはないんだ。）

宋：我们俩挺好的呀。就是亚洲住在外头写东西回来的少点儿，我也习惯了。现在很多家庭不都这样吗？没觉着有什么不正常的呀。（私達はとてもうまくやってるのよ。ただ亜洲がよそで執筆していてあまり帰ってこないだけで，それにはもう慣れたわ。今はこういう家も多いんじゃない？別に変だとは思わないわ）（〈一〉）

（9）「へえ。十四になる妹があるっていうのは……」

「あいつですよ。妹だけにはこんなことをさせたくないと思いつめていますが、そこにはまたいろんな事情がありましてね」（『伊』）

嗯，你说有个十四岁的妹妹？

就是她呀。我总想不让妹妹干这行，可是还有许多具体问题。

(10) さあ、いつごろかしら？でも何度かは見かけたわ。わたし、ここのところずっと庭で日光浴してるもんだから、いつがいつなのかうまく区別できないんだけど、いずれにしてもこの三、四日のことね。うちの庭は近所の猫のとおり道になっていて、いろんな猫がしょっちゅう歩いてるのよ。（『パ』）

呃一什么时候来着？反正见过几次。我一直在这里晒日光浴来着，具体什么时候分不大清，也就是近三四天吧。我家院子成了附近的猫们的通道，很多猫时常走来走去。

(11) それに農家の女ばかり六人姉妹の六人目だから名前なんかたぶんどうでも良かったのね（『パ』）

再说我是农家六姐妹里的第六个，名字之类大概叫什么都无所谓吧。

平叙文の“啊”と“吧”は「知らせ」の機能を持つ。2で見たように，“啊”は「時計が止まっているな」のように事象をそのまま言語化する際に用いられた。これは話し手にとって当該命題が事実であり真であり変化しないものであることを表す。このことから対相手型の発話において“啊”は聞き手に「当該命題を事実として受け入れ，知識状態を更新せよ」と知らせていると考える。一方（10）（11）の“吧”は自分の知識が曖昧であり，断定できないことを表している。しかし“吧”は以下のように，曖昧さの全くない文脈でも使われる。

（12）你愿意学习你拿去学，估计你也看不懂一等会儿我自己收吧！（もし勉強したいなら持って行くといい，たぶん見てもわからないと思うけどー（カバンを片付けようとする妻の手を遮って）後で僕が自分で片付けるよ！）（〈我〉）

（13）过份？我过份？我怎么过份了？哦，我连生病的权利都没有啊？反正我也快断气了，我也不怕得罪谁，我干脆把心里话都说出来吧！（やりすぎ？私がやりすぎ？なにがやりすぎよ？ふん，私には病気になる権利すらないってことなの？どうせもうすぐ死ぬんだから，誰に恨まれたってかまわない，いっそのこと思ってることを全部吐き出すことにするわ！）（〈我〉）

（12）（13）はいずれも話し手の意思を伝える文である。（12）は片付けようとする妻に対する婉曲な拒絶であり，聞き手に対するポライトネスとして機能していると考えられる。先の（10）（11）をもう一度考えてみると，“吧”は当該命題が不確定であることを表していたが，同時にそれは曖昧な要素を組み合わせた上で導き出された最も妥当な推測であるとも言える。つまり“吧”の使用の背景には検証という作業が行われているのである。このため(12)は「聞き手の気持ちも考慮したけれど」という含意がポライトネスにつながるのである。そして（13）は「考えた結果採りうる最も妥当な手段」の提示であり，それが話し手の意志の表明として機能する。

3．2　命令文

命令文は話し手が聞き手に対し，命題内容の実現を望んでいることを表す文である。ここでの“啊”は平叙文同様，当該命題を聞き手に知らせるためのマーカーとして機能している。

(14) おとうさん，もっとはやくはしってよ。

爸爸，再开快点呀。(『日』)

“啊”を用いた命令文が発話される前提（十分条件）として、「聞き手がある行為を停滞させている」ことが挙げられる。

(15) 给我一张票！(チケットを一枚ください。)

(16) 给我一张票啊！(チケットを一枚くださいよ。)

(15) はチケット売り場でチケットを購入するときなどに使われる一般的な発話である。しかし相手がなかなかチケットをよこさなかったりすると，第二の発話として (16) がなされる。これは“啊”の導入によって聞き手の注意を喚起し，命題を再度確認させるためである。

一方“吧”は平叙文で見た「断定できるだけの確かな要素を持っていない」性質が「断定を避ける」ことにつながり，語気をやわらげていると考えられる。

(17)「言われた通りにした方がいい」と僕は忠告した。店長がずいぶん迷っているように見えたからだ。(『パ』)

“还是按她说的办吧。”我见店长显得相当困惑，便好意地劝他。

命題内容が話し手にとって益になる行為であれば要求や依頼となり，聞き手に益であればすすめになる。

(3)「活動につれて行って下さいね」(「伊」)

“请带我去看电影吧。”

(2)「あんなに大きくみえるんですもの、いらっしゃいましね。」(「伊」)

“看起来竟是那么大。您一定来啊。”

(3)(2) は踊り子から学生である「私」に向けられた発話であるが，(3) は踊り子が自分の願いを口にしている場面で，“吧”を用いた婉曲な依頼を表している。(2) は聞き手に，大島にある自分たちの家に滞在するよう踊り子がすすめている場面で，これは聞き手にとって有益な行為である。

3.3 諾否疑問文(9)

諾否疑問文は，話し手が聞き手に対し当該命題成立の可否を知ろうとしていることを伝える文である。

(18) 你是田中吗？(あなたは田中さんですか？)

(19) 你是田中吧？(あなたは田中さんですね？)

(20) 你是田中啊？(あなたが田中さんなのですか？)

(18) は「聞き手は田中だ」という命題の真偽を問うている。(19) は命題を確言する判断材料を話し手が持っていないことを表している。(20) は話し手が命題に対立する前提を持っていることを表している。

諾否疑問文発話において“啊”は，発話内に提示された命題pに対立する¬P（¬は否定を表す）の存在を示唆している。話し手はA→B（→ならば）という情報を持っていた。そこへA→Cという情報が新たに加わった。B＝Cでない限り，二つのうちどちらかが真でありどちらかが偽である。ここで話し手は矛盾する二つの情報の処理を一時中断し，聞き手にコトの真偽を問うている。

(21) 李：这儿真像夏威夷。（ここはまるでハワイみたい）
刘：你去过夏威夷呀？（ハワイに行った事があるのか？）
李：没有，我就是觉得像。（ないわ。そうみたいって思っただけ）（〈一〉）

(21) でハワイみたいと言った李はアルバイトの若い女性である。劉の発話は「こんな女の子がハワイに行けるはずがない」という気持ちを表している。[10]

3.4 蓋然性を表す副詞との共起

これまで見てきたように“啊”が用いられる前提には事実を基盤とした揺らぎのない真実があり，“吧”は不確実な事柄に基づいていた。こうした“啊”と“吧”の性質の違いは蓋然性を表す副詞との共起関係にも反映される。

(22) 他是小学生啊。（彼は小学生だったのか／彼は小学生なんだよ）
(23) 他是小学生吧。（彼は小学生でしょう）

(22) は二義性をもつ。一つは，彼は小学生ではないと思っていたのに，実は小学生であることが判明したという，対自分型発話である。もう一つは彼が小学生であることを聞き手に伝える対相手型発話である。いずれの意味においても“他是小学生”は確定した事実として捉えられ，蓋然性を表す副詞とは，その程度に関わらず共起しない。

(22)' ＊他｛一定／大概／也许／好像｝是小学生啊。

(23) は彼は小学生だろうという話し手の推測を表し，蓋然性を表す副詞と共起する。

(23)' 他｛一定／大概／也许／好像｝是小学生吧。

また，“确实”のような，話し手にとって真であることが確定しており，モダリティ要素のうすい副詞は“吧”と共起しない[11]。

(24) ＊他确实是小学生吧。

一方，

(25) 他确实是小学生啊。(彼は確かに小学生だよ)

(25) は彼が小学生だという事実を強調する対相手型発話としてのみ，成立する。

さて，蓋然性を表す副詞が“啊”と共起し，“吧”と共起しない例も存在する。

(26) 您一定来啊。

(27) ＊您一定来吧。

(28) ＊你一定是田中啊？

(29) 你一定是田中吧？

(26) は話し手の意図や要求を表す文である。こうした文では命題内容は話し手にとって確定しているものであり，“一定”は文全体の蓋然性を高めるために用いられていると考える。しかし (27) “吧”は断定を避けるために用いられているので，“一定”を用いることはこれに矛盾することになる。また (29) “吧”を用いた諾否疑問文中であれば“一定”は推測の度合いを高めるものとして共起が可能である。しかし (28) “啊”を用いた諾否疑問文では，導入された情報の検証という段階にあり，話し手の推測が入る余地はない。(12)

4．終わりに

本稿では，談話の場における“啊”と“吧”について，文の種類ごとに両者の意味と機能を比較し考察した。“啊”と“吧”は平叙文，命令文，疑問文に用いられるがその表す意味は大きく異なる。それは“啊”が事実を基盤としているのに対し，“吧”は不確定な事柄を基盤としていることに由来する。ここで0で挙げた（1）の例をもう一度見てみる。

（1）私は太鼓を提げてみた。「おや、重いんだな。」

「それはあなたの思っているより重いわ。あなたのカバンより重いわ。」

踊子が笑った。

我试着把鼓提起来。“唉呀，真重啊”

“比你想像的重吧。比你的书包还重啊”舞女笑了。

まず踊り子は「重いんだな」という言語情報を獲得する。この発話から話し

手は「もっと軽いと思っていた」という前提が導かれる。“比你想像的重吧。”は聞き手の想像の領域に属し断定することができないため“吧”が用いられ，“比你的书包还重啊”は“啊”を用いて話し手に事実を知らせている。上記考察の結果を以下にまとめる。

“啊”：当該命題が確定している事実であることを聞き手に知らせる標識。疑問文ではその事実が前提となる。

“吧”：当該命題に対し話し手は断定できるだけの要素を持たないことを表す標識。命令文では断定を避け，婉曲な依頼となる。推測や提案を表す場合はそれが未定要素を組み合わせ導出した最も妥当な結論であることを示唆する。

注

（1）語気助詞という言い方をしているものもある。

（2）今回扱う“啊”は文末助詞として文末につく“啊”，“吧”のみとし，文中の切れ目に挿入される間投用法については考察の対象外とする。なお，“啊”は前の語の末尾音によって音変化を起こす。これに伴い表記は“啊、呀、哇、哪”に変わる。

（3）朱德熙（1982）≪语法讲义≫ p .207 － 213

（4）胡明扬（1981）＜北京话的语气助词和叹词＞ p .86 － 88

（5）木村・森山（1992）『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』p .30

（6）李貞愛（2001）「確認の“啊”と“吧”」

（7）“呐”は“呢”＋“啊”であるのでこの“呐”には“呢”の機能が含まれている。

（8）『談話と文脈』p. 61

（9）当否疑問文，真偽疑問文などの言い方をしているものもある

（10）“啊”発話の背景に前提となる事実が存在することは，疑問詞疑問文からもうかがえる。

(30) 谁？（誰？）

(31) 谁呀？（どなた？）

(30) は何か物音がしたときにも使えるが、(31) はノックの後など、人であることがわかっている時でないと使えない。

（11）玄宜青（1993）『中国語学』240 p.55

(12) 諾否疑問文中の“啊”が蓋然性を表す副詞と共起しないことについては李貞愛（2001）お茶の水女子大学中国文学会報第20号 p.358 でも指摘されている。

参考文献

朱德熙（1982）≪语法讲义≫商务印书馆

胡明扬（1981）＜北京话的语气助词和叹词＞≪北京话初探≫商务印书馆

邵敬敏（1996）≪现代汉语疑问句研究≫华东师范大学出版社

李貞愛（2001）「確認の“啊”と“吧”」お茶の水女子大学中国文学会報第20号

玄宜青（1993）「広義蓋然性を表す副詞の体系」『中国語学』240

木村英樹・森山卓郎（1992）「聞き手情報配慮と文末形式―日中両語を対照して―」『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』くろしお出版

田窪行則・西山佑司・三藤博・亀山恵・片桐恭弘（2004）『談話と文脈』岩波書店

例文出典

『伊』『伊豆の踊子』川端康成　新潮文庫 2001 年≪川端康成作品精粋≫叶渭渠　译　河北教育出版社 1926 年

『パ』『パン屋再襲撃』村上春樹　文春文庫 1989 年≪再袭面包店≫林少华　译　上海译文出版社 2001 年

『日』《日汉对照日本民间故事选》国际关系学院日语系编 商务印书馆

〈一〉≪一声叹息≫ VCD 北京电视艺术中心音像出版社

〈我〉≪我爱我家≫梁左 王朔 英达 英壮 华艺出版社 1993 年

出典のない用例は作例である

（奥羽大学）

〈附記〉

本稿は，中国文化学会月例会（於筑波大学東京キャンパス 2004.12. 4）での口頭発表「語気助詞の“啊”と“吧”」を修正加筆したものである。貴重なご意見をくださいました先生方に深く感謝いたします